

授業科目名	専門教養・国際協力論 (英: Global Cooperation in Medicine)		
対象学年	1年生	単位	2単位
科目責任者	えぼしだ あきら 烏帽子田 彰	所属	公衆衛生学 (内線 5167)
		メール	duck@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義中心、ディスカッション、学生の発表、ワークショップ		
概要	国際人としての教養を備え、健康や疾病に関する国際的視野を持ち、国際社会の一員かつ医療人としてどのように将来活動できるかについて、各専門分野で活躍する講師陣による講義と、学生のグループワークや発表を通して理解を深める。		
到達目標	<p>一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康・医療を介して国際的視点を学ぶ [“貧困 (poverty)” の対極にある“正義 (justice)” が社会・国家等を発展させること等] 2. 医学・医療以外の様々な国際協力との共通性について認識を深める <p>行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の保健医療の現状と関連する諸問題を述べることができる 2. WHO, JICA, NGOなどの役割と活動を述べるができる 3. 日本の国際協力のあり方を述べるができる 4. 各課題に関連する資料や文献を収集し、レポートをまとめることができる (http://home.hiroshima-u.ac.jp/mededu/course_syllabus.html#p01) 		
講義日程	<p>第1回 国際協力論ガイダンス：烏帽子田 彰 第2回 武力紛争後の社会における平和構築と医療協力：山根 達郎（平和共生講座 准教授） 第3回 保健医療指標：藤田 幸司・鹿嶋 小緒里・土橋 西紀 第4回 広島県医師会の国際協力（IPPNW）：片岡 勝子（IPPNW 日本支部事務総長） 第5回 広島大学医学部における国際交流・国際協力：栗栖 薫 第6回 開発途上国に国際保健の実例：小林 敏夫・渡部 明子（ANT-Hiroshima代表） 第7回 保健医療行政における国際協力：柏樹 悦郎（厚生労働省 広島検疫所 所長） 第8回 学生から見た国際協力：烏帽子田 彰・藤田 幸司・鹿嶋 小緒里・土橋 西紀 第9回 国際協力の担い手：烏帽子田 彰・藤田 幸司・鹿嶋 小緒里・土橋 西紀 第10回 国際保健の視点：仲佐 保（国立国際医療研究センター国際派遣センター長） 第11回 健康の社会的決定要因：烏帽子田 彰・藤田 幸司・鹿嶋 小緒里・土橋 西紀 第12回 全球化する環境問題と日本の国際貢献：白井 義人（九州工業大学／マレーシアアプトラ大学 教授） 第13回 国際協力実践的思考のためのワークショップ2：烏帽子田 彰・渡部 明子（ANT-Hiroshima代表）・藤田 幸司・鹿嶋 小緒里・土橋 西紀 第14回 国際協力実践的思考のためのワークショップ2：烏帽子田 彰・渡部 明子（ANT-Hiroshima代表）・藤田 幸司・鹿嶋 小緒里・土橋 西紀 第15回 国際協力論総括：烏帽子田 彰（広島大学） （※ 講義順番は一部変更になる予定）</p>		
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）		
評価法	各講義ごとの小テスト並びに課題レポート（ワークショップでの発表を含む）、および講義の受講態度等により総合的に判断する。小テストは全課題の提出が必須である。なお、追試（再試もしくは再レポート）は1回のみ実施する。 なお、講義中の積極的な質疑や姿勢などを重視する。（必ず個々に対し発言・応答を課すこととする）		
履修上の注意 アドバイス	講義形式は講義中心とし、板書の書き取り等からの脱却による「聞いて、見て、考える授業」として構成されている。各回の授業後にレポートを提出します。 原則として予習を踏まえて催講する。 （事前に配布した資料等から、次回の授業範囲を予習すること）		

推奨参考書

各ユニットのシラバスを参照のこと